



公益財団法人
民際センター

すべての子どもたちに、教育を。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 337
江戸川橋東誠ビル 5F
TEL:03-6457-5782 FAX:03-6457-5783
<http://www.minsai.org>



公益財団法人 民際センター

2017年度 活動報告書

2017年4月1日～2018年3月31日



公益財団法人
民際センター

目次

基礎教育奨学金事業／高校教育奨学金事業	3
特別教育奨学金事業／学校施設整備事業	4
図書事業／書籍普及事業／学校教材支援事業	5
生徒教材支援事業／自転車支援事業／教師修士留学事業	6
少数民族教師養成事業／給食普及事業／調査研究事業	7
研修視察事業／民際力事業／その他の募金等について	8
経常収益国別内訳	9
わたしたちのポリシー	10

基礎教育奨学金事業

対象国 : ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー、ベトナム

事業内容 : 中学生への奨学金支援

民際センターにおいて、ダルニー奨学金と命名されている、各国の中学生に対する奨学金支援事業である。持続可能な開発目標（SDGs）の質の高い教育（High quality education）の目標に沿って、ラオス、カンボジアの小学校支援から、中学校支援に路線を変え、中学進学率を向上させるための奨学金の位置づけから、中学への進学は果たしたが、経済的事由で中学教育の継続が困難と見込まれる生徒の支援へと奨学金の位置づけが変わってきている。

年度別 各国の奨学生数

会計年度	タイ	ラオス	カンボジア	ベトナム	ミャンマー	合計
平成 25 年度	4,061	4,316	1,428	109	166	10,080
平成 26 年度	3,048	3,951	1,382	251	277	8,909
平成 27 年度	2,477	3,738	1,277	364	441	8,297
平成 28 年度	2,246	2,978	1,353	405	602	7,584
平成 29 年度	2,182	2,970	1,469	502	636	7,759

5 か国の奨学金の合計数が平成 28 年度（2016 年度）まで、大幅に減少していたのが、本年度ついに昨年度を若干上回る実績を残すことが出来た。タイについては、目ざましい経済発展に伴い、実態としては、貧富の差が激しく地方の農村部では、依然として貧困による教育機会の損失があるにもかかわらず、一般的に貧困国というイメージが薄れ、毎年タイ指定の奨学金が減少しているのが現状である。ラオスに関しては、昨年とほぼ同等の奨学金数、カンボジア、ベトナム、ミャンマーは大きく数字を伸ばす結果となった。

本年度から事務職員を一新し、新事務局の体制のもと、目標管理のマネージメントを強化し、ファンドレイジングのオンライン化を強力に推し進めた成果があらわれた結果と判断している。



収入 : 109,430,800 円

支出 : 109,263,782 円

高等教育奨学金事業

対象国 : タイ、ラオス、カンボジア

事業内容 : 高校生への奨学金支援

タイの高校奨学金の歴史は長く、中学校の支援の延長として、奨学金支援者の希望により、対象奨学生の高校進学の希望を確認してから実施する制度となっている。若干、ラオス・カンボジアでも試験的に実施している。

収入 : 1,159,969 円

支出 : 1,153,939 円

特別教育奨学金事業

対象国 : タイ

2010 年から開始した奨学金委託事業で 2022 年をもって終了予定。2017 年度は 13 名の大学卒業生と 69 名の学部学生への奨学金を提供した。EDF によるカウンセリングの実施により、一定の GPA (成績表) の維持を可能にしている。学生はバンコク・チェンマイの複数の大学に通学している。

収入 : 5,220,233 円

支出 : 5,215,496 円

学校施設整備事業

A) 中学校教室建設事業

対象国 : ラオス

事業内容 : 教室建設事業

ラオスでは中学校数は、小学校数と比較すると 1 対 10 で、学校数及び教員数も圧倒的に少ない。タイ方式をとり、小学校に付帯した教室を建設し、小学校教師が中学生を教える、特殊事例を教育省から認めてもらい実施している。本年度は 2 教室の増設建設を実現した。

B) 女子寮建設事業

対象国 : カンボジア

事業内容 : 女子寮建設事業

高校の数の不足による長時間の通学及び治安の悪さから高校就学を諦める女子生徒が少なくない。こうした状況に対し、学校の敷地内に女子寮を建設することで、女子生徒が安心して勉強を続けられるようにサポートする事業。

本年度は、4 棟の女子寮を建設した。

両事業ともハード建設であるが、持続可能な質の高い教育の一環といえる。

収入 : 13,785,727 円

支出 : 13,775,831 円



図書事業

対象国 : ラオス

事業内容 : 未だラオスの地方の多くの小学校は風雨を遮る壁などが無い校舎が多数存在する。その場合は図書箱を提供し、書籍事業としているが、一定の施設が整った学校でも、図書事業の促進に、多様な事業支援が必要である。カスタム・メイド的な要素のある事業。

収入 : 323,426 円

支出 : 280,858 円

書籍普及事業

対象国 : ラオス、カンボジア

事業内容 : 図書セットをラオス、カンボジアの学校に提供する事業。

本が不足する学校にとっては非常に重要な事業。今までに千校以上の学校に提供した実績があるので、今後の指針を確立するために評価は欠かせない。本年度は、ラオスに 114 セット、カンボジアに 57 セットの図書を提供。

収入 : 6,055,000 円

支出 : 6,054,356 円



学校教材支援事業

対象国 : タイ、ラオス

事業内容 : 学校教育に必要な教材やスポーツ用具を学校に提供するプロジェクト。調達から発送まですべて対象国内で手配するため低コストでの提供が可能。各学校の予算は生徒数によって、人件費も含めた、学校の予算が決まるので、対象地域である郡部の生徒数の少ない学校では非常に有効である。

収入 : 2,208,000 円

支出 : 2,125,755 円



生徒教材支援事業

対象国 : タイ、ラオス

事業内容 : タイ、ラオスの奨学生を支援している支援者が、奨学金に加えて消耗品の文具などを贈る事業。奨学金で必要最小限の物は入手できるが、それではだけでは賄いきれない教育に関わる経費がある。特に奨学生の家庭では、日々の食が大前提で、生徒にとっては本当に嬉しい贈り物となった。

タイは82人、ラオスは97人の生徒に提供した。

収入 : 1,567,531 円

支出 : 1,566,531 円

自転車支援事業

対象国 : ラオス、カンボジア

事業内容 : 遠距離通学の生徒へ自転車及び修理道具一式を提供する事業。通学にかかる時間が短縮されるため、非常に有効で、中途退学の阻止に繋がっている。

本年度は、ラオスの生徒に77台、カンボジアの生徒に41台、合計で118台を提供した。

収入 : 1,724,216 円

支出 : 1,720,319 円



教師修士留学事業

対象国 : ラオス

事業内容 : 算数・数学の教授法の質の向上を目的に、大学・高校教師等を選抜し、タイ国立コーンケン大学大学院の教育学部修士課程で3年間留学、修士号取得。帰国後にラオスの教育機関に所属し、ラオスの教育の質向上に貢献する人材育成プロジェクト。国立教育研究所の算数数学の教科書編纂の最高責任者やサバナケット大学教育学部長等、卒業生は大きな責務に就いている。平成16年開始の当事業は、十分な人材の養成と蓄積ができたと判断されることにより、現在在学中の留学生2人が卒業する平成30年度で終了となる。

収入 : 2,800,000 円

支出 : 2,750,763 円

少数民族教師養成事業

対象国 : ラオス

事業内容 : 人口約660万人(ラオス統計局2013年)の内、4割が49の少数民族で、少数民族の教育内容の充実が大きな課題。少数民族はそれぞれ母語を持ち、ラオス語しか話せない教員、ラオス語の教科書では、教育の質の向上が難しい。高卒の少数民族で教師志望者に教師養成短大の奨学金を支援し、母語で教育できる教師の育成が本事業の目的。成果の測定は難しいが、第一に民際の影響で、少数民族の短大の受け入れ枠が増え、教師希望者が増えていることは、大きな前進であるといえる。平成29年度は、卒業予定者33名、新入生29名に奨学金を提供した。



収入 : 10,090,000 円

支出 : 10,076,014 円

給食普及事業

対象国 : ラオス

事業内容 : 小中学校の生徒が農業活動を行って得た野菜や魚などを食材にしたり販売したりして、独力でランチの提供を目指している事業。4年目にあたる平成27年度から食材に対する援助をストップしたり、半減したりする代わりに、専門家を招いたり訪ねたりして生産力の向上に努めたが、結果は1校が週1回、2校が週2回のランチ提供に終わりました。平成29年度は生産力向上のため農業専門家から学ぶことを継続しつつ、在ラオス日本国大使館からの補助金で池を作り水不足を解消し乾季でも農業ができるようにするとともに、村人からのより一層の協力を得られるイベントの実施にも積極的に取り組んだ。本事業は、本年度で終了となる。

収入 : 3,000,000 円

支出 : 2,998,000 円

調査研究事業

対象国 : タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム、日本

事業内容 : 事業として制度化するための調査の実施をした。また、その調査に基づき試験的事業を実施した。

収入 : 1,641,778 円

支出 : 1,641,778 円

研修視察事業

対象国 : タイ、ラオス、カンボジア

事業内容 : ラオスが8件と一番多く、次にカンボジアが2件、タイが1件、それぞれ研修視察事業を行った。ベトナム、ミャンマーはなかった。実施支援者は、学生団体が3件、個人が2件、ライオンズ、企業、組合、地域団体、その他が1件ずつであった。研修視察事業に参加したすべての方が寄付支援者であり、特に学生団体 SWITCH はカンボジアの小中学校で運動会を開催するユニークな活動を実施、本年度は9年目の活動になる。

収入 : 6,041,359 円

支出 : 6,280,631 円

民際力事業

対象国 : 日本

事業内容 : 民際センター・サポートプログラム

本事業の他は、すべて指定寄付であり、組織の運営費に充当が困難である。補助金に依存せず、市民団体としての本来の姿、民力で民際活動の維持促進の重要性を訴求し続けるためには、欠かせない事業である。既に廃止したプロジェクト全般寄付は、本事業に充当し、全体の底上げにつなげた。

収入 : 7,923,565 円

支出 : 6,723,565 円

その他の募金等について

遺贈寄付に関して :

本年度、昔、奨学金支援者だった方から多額の遺贈を受けた。突然の医師からの宣告を受け、心の奥にしまっていた「一人の生徒を卒業するまで支援した」ことを思い出し、民際を選択して下さった。

創設以来、一人ひとりの支援者に対してきちんと報告書を送り届けた結果、このような遺贈寄付が可能になったと認識している。ご支援者様のご意向により「希望基金」と名付けベトナムの女の子向け奨学金を来年度より提供していく。



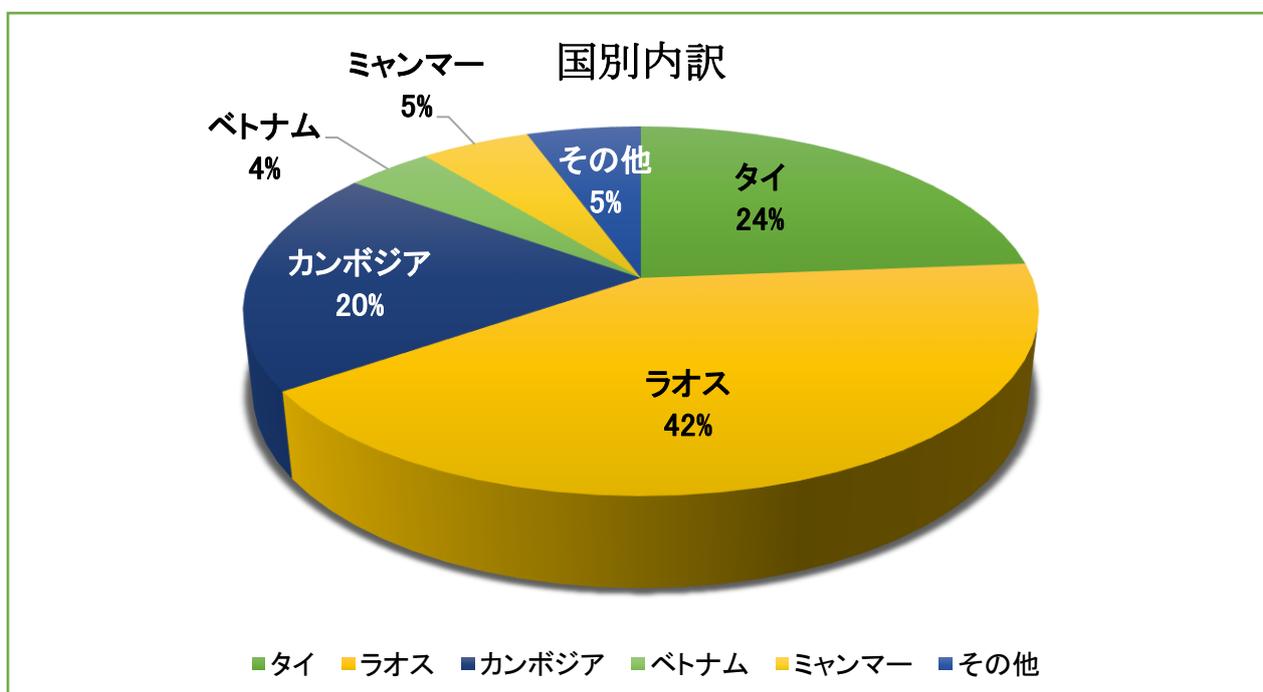
経常収益（受取寄付・事業収益等）国別内訳

2017年4月1日から2018年3月31日まで

* 経常収入：基本財産運用益、特定資産運用益、事業収益、受取補助金、受取寄付金、雑収益の総合計

(単位 1,000円)

科目	タイ	ラオス	カンボジア	ベトナム	ミャンマー	その他	合計
ダルニー奨学金	31,420	40,744	20,516	7,224	9,188	0	109,093
プロジェクト全般	4,028	23,219	12,467	0	0	0	39,714
その他事業	5,558	8,041	1,000	0	0	9,565	24,165
合計	41,006	72,004	33,983	7,224	9,188	9,565	172,972



わたしたちのポリシー

支援者の皆さまとともに私たちは、経済的に貧しく学校に通えない子どもたちに教育支援をしたいという皆さまの想いを真摯に受けとめ、子どもたちの教育支援を行います。また、支援を受けた子どもたちの想いや成果を、支援者の皆さまに伝えることにより、1対1でつながる顔の見える支援を基本に、支援者の皆さまに支援の手ごたえや喜び、支援する子どもたちと繋がっている実感、ひいては生きがいを感じていただくことに全力を尽くします。

■ 受益者（子どもたち）とともに

私たちは、先進国の目線で途上国を助けるという発想に立脚するのではなく、受益者、すなわち、子どもたちがその国の文化や風土を尊重した教育を受け、自立できる環境をつくることを目指します。政治的・宗教的背景による価値観の押し付けではなく、支援を受ける子どもたちのニーズに即し、彼らが自力で将来を切り開くために必要な教育支援を実施できるよう全力を尽くします。

■ 時代・社会とともに

環境問題や社会問題が顕在化し、時代が大きく変化する中で、私たちは常に新しい国際貢献のあり方を模索していきます。私たちが行っている活動は特別な人による特別なことではないという考えに立ち、広く多くの人に支援の必要性を伝え、理解・共感していただくことを目指します。そして、たくさんの市民の力によって、全ての子どもたちが教育を受けることのできる世界づくりに全力を尽くします。

公益財団法人 民際センター

〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F

TEL 03-6457-5782 FAX 03-6457-5783

お問合せメール : info@minsai.org

URL : <http://www.minsai.org>

